

ドライバーイベント
レポート編



皆さんはドライバーの仕事について、どんなことを想像されるでしょうか。長時間労働で生活リズムがくずれる？体力がいるのでは？

そんな疑問をぶつけてみよう！というイベント「トラック？いや、ホワイトです。働くドライバーのリアル座談会。」が開催されました。

興味深い話をたくさん聞くことができたので、ちょっとだけお届けしたいと思います。

東都観光バス：都

貸し切りバスを扱っています。歩合制を採用する企業が多い業界ですが、繁忙期とシーズンオフとで給料に2倍ほどの差があるため、当社では月額制を採用しています。



東栄運輸：栄

トレーラーや大型トラックを扱い、特殊貨物を運んでいます。電車の車両やダンプカー、原発の部品、東京ドームの天井など、20~30トンの非常に大きいものを中・長距離運搬します。



篠崎運輸：篠

大宮に会社があります。メーカー向けに運輸と倉庫管理を並行して行うワンストップサービスを提供しています。大型免許を持っていないなくてもOK！支援制度があります。



ドライバーになったきっかけは？

都：小学校の林間学校で東都観光バスを利用した記憶があり、その時から観光バスの運転手になりたかったんです。当時は18歳で普通免許を取ってから3年間は大型免許が取れなかったので、一度鉄道会社に就職して車掌を経験した後、転職しました。

栄：運転が好きで、16歳で就いたメッセンジャーの仕事を皮切りに色々なものを運ぶ仕事をしてきました。

篠：子どもの頃から、大きい乗り物で人々の生活を支える仕事に憧れていました。デスクワークより外で働く方が自分に合っているとも思います。

印象に残っている仕事は？

都：高校サッカーの選手団をNACK5スタジアムに送った時は、いずれこの中の誰かが大物プレイヤーになるかも？とワクワクしました。

栄：国からの依頼で自衛隊の無人ドローンを運んだときは、その後ネットニュースにもなり「あれ、俺が運んだんだぜ」と誇らしく思いました。

篠：配送先が消防署や内閣府などで、一般の人が入れない場所に入れることがあります。手続きは厳しいですが。

大変なこと・困りごととは？

都：駐車場の大型枠に一般乗用車が停まっていると…。乗客を休憩に降ろしてから、場所が空くのを待ちます。

栄：デリケートなものを運ぶときは、荷物を1時間以上観察して固縛します。ドライアイスを任されたときは頭を抱えました。

篠：荷物の乗ったトラックはあまりスピードが出せないの、あおらないでほしいです。制動距離も長いので車間距離を開けないといけないのですが、間に入られると困りますね。

自慢のドラテクを教えてください！

都：人を乗せるので、揺らさないためになるべくハンドルを切らないようにしています。

栄：急ブレーキを使わないように「かもしれない運転」を心がけていたら、予知能力が発達しました！

篠：空車のときは風の影響をもろに受けるので、技術がいりますね。

ずばり魅力は何でしょう。

都：観光バスは様々な所に行けます。標高2,000m級の美ヶ原高原など、大きな窓ガラスから景色を堪能できます！

栄：「運んでくれてありがとう」の言葉が嬉しいです。もっと言うにただけるように、技術を研究しながら磨いています。

篠：自分の仕事によって人々の生活が保たれている、日本の経済を支えていると思えるところです。

お話の中で三者共感する場面もありました。

- ①人手不足!
- ②パーキングが少ない!
- ③ドライバーが休憩できる場所がもっと欲しい!

など、改善すべき点は多々あるようですが、皆さんやりがいと誇りを持って仕事に向き合っていることが伝わるイベントでした。

明日使いたくなる?
気になるワード!

困縛(こばく):

積んだ荷物を崩したり壊したりしないようにワイヤーや荷締機で固定すること。

2024年問題:

2024年4月から自動車運転業務の時間外労働が規制されることで、「モノがちゃんと運べない!」「人手が足りない!」といった心配が・・・

ツーマン運行:

長距離・長時間運転の際、1台に2人が乗って交代で運転する方式。新入社員教育のときにも使われます。

配車:

行先や荷物に合わせて車両・ドライバーを割り振ること。シフト組み。

ドライバーのおしごと本!

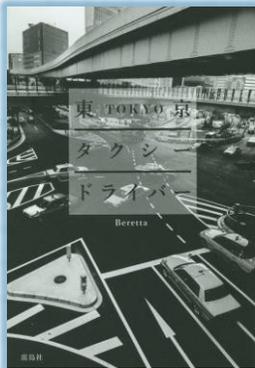
『本バスめぐりん』
大崎梢 / 著 創元推理文庫 2016年

この小説の舞台は3000冊の本を載せた移動図書館です。運転手のテルさんと司書のウメちゃんの2人が町中を巡り、本を通じて様々な人と出会います。なかなか図書館に行けない人にとって、本を運んでくれる移動図書館の役割はとても大きいのだと気づかされます。

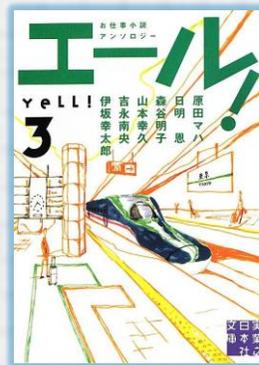


『東京タクシードライバー』
Beretta / 著 雷鳥社 2015年

タクシードライバーとの出会いは一期一会。降車してしまえば、二度と会うこともなく記憶に残ることもないかもしれない。でも、一人一人に注目してみると驚くような人生を歩んでいたりする。取材と写真で29人の生き様に迫ります。

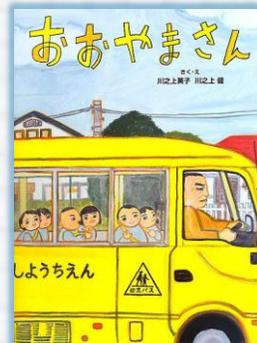


『エール!』
-お仕事小説アンソロジー-
原田マハ他 / 著 実業文日本社文庫 2013年



この本に収録されている「ヴィーナスの誕生」は美術の造詣が深く数々のアート小説を手掛ける原田マハさんが、運送会社の美術品輸送担当者に焦点を当てた短編です。人の手で丁寧に丁寧に扱うことで、作品は表舞台で輝くことができるのです。

『おおやまさん』
川上英子・川上健 / さく・え 岩崎書店 2013年



おおやまさんは幼稚園バスの運転手です。事故が起きないように真剣に仕事をしていると、ついつい怒ったような顔になり、子どもたちからは怖がられてしまいます。だけど子どもたちは気づいていきます。おおやまさんのやさしい素顔に…。日々、子どもたちのために働く大人にスポットをあてた絵本です。

『気まぐれキッチンカーで昼食を』
鹿ノ倉いるか / 著 徳間文庫 2023年



成り行きで叔父のキッチンカーを手伝うことになった咲月(さつき)の目から見た叔父さんはクセが強くおせっかい。でも風変わりなメニューで周りの人たちをハッピーにしていけます。

『国道食堂』1st・2nd season
小路幸也 / 著 徳間書店 2020~21年

国道沿いにあるドライブインの店内にはなんと飲食店に似つかわしくないプロレスのリングが鎮座しています。ドライバーのお腹を満たすだけではない、一味違った飯テロ文学です。



この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。